

この年未年始、バングラデシュとネパールを訪問。バングラデシュでは、「チャンドラゴーナ会」で支援している宮川眞一・理世夫妻に会い、村落開発、相互扶助組合活動など。ネパールでは、開発教育ファシリテーターのカマルさんに会い、カースト、先住民族など複合差別構造の厳しい状況解決手法の研究。同時に、未成熟な政府に代わって諸課題に取り組んでいるNGO・NPOの役割・機能と運営についても視察。

バングラデシュ編

JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)の派遣で向う3年間海外医療に従事する宮川医師夫妻。そこで会った駐在大使館の紀谷参事官のHPから「今日チャンドラゴーナ会の角さん、宮川さんにお会いしました。チャンドラゴーナ会は、「バングラデシュの人々と共に歩む M 医師夫妻を支える会」、既に二百数十名の会員がいらっしゃるそうです。途上国の医療状況改善に取り組むご夫妻に、これだけの温かい気持ちに寄せられるのは、関係者のご人徳と善意のたまものと思います。このような活動が、日本とバングラデシュの架け橋となって、両国間の理解を深めていくように感じました。角さんは、[NPO ふくおか](#)で、NPOのマネジメント支援も行っているそうです。志あるNPOが日本でますます発展していくことを願っています。」



CHCP(Community Health Care Project:地域保健プロジェクト)。保健衛生等の改善をとおして住民の自立支援。特にショミティ(相互扶助組合)でのマイクロクレジット(小規模貸付制度)が女性の自立と地位向上に取り組んでいる。交流会で案内役ザーマンさんが歌ったのは、黒人霊歌 We shall overcome! 「我々はいつか勝つ」と、バングラの貧困克服の思いを重ねる。SSS(Society for Social Service)社会奉仕協会は、地域住民の厳しい問題に幅広く取り組む現地のNGO。中部の町タンガイルの売春街と母子支援センター。



ネパール編

FEDO(Feminist Dalit Organization:フェミニスト・ダリット協会) 不可蝕民アウトカーストの支援団体。「カーストとジェンダーと闘い、正義と平等の社会をめざす」ことを目的とした団体。ダリットとは、カースト制度の下に置かれた被差別アウトカースト(不可蝕民)と呼ばれる最下層の人々で、多数の先住民族との複合的な貧困と差別に苦しんでいる。

PRA(Participatory Rural Appraisal:参加型村落調査・評価)、PLA(Participatory Learning and Action:参加型学習と行動)の手法を学ぶ。

ダリットの女性グループ。農村で女性のエンパワーメントに向けた保健・公衆衛生啓発活動、教育、所得向上活動など取り組む。はるかにヒマラヤの峰々が。



「アジア共同体」が叫ばれるなか、国家、政治を超えた住民同士の連帯の可能性を実感。今まで訪問した韓国、中国、ベトナム、カンボジア、タイ、ビルマ、バングラ、インド、ネパール、シルクロードを越えて、娘のいるドイツまで繋がるユーラシア大陸の広大さと多文化の尊重と受容。テロ、地球温暖化、病害菌の飛翔など生命、生態系を揺るがす現状の危機。豊かさの中の貧困は、日本でも益々拡がっています。両国とも多くの海外のNGOが支援しているなか、現地NGO・NPOの役割が増大し実績も上げてきている。経済のグローバル化で、貧困・所得格差が広がるなか、その課題も少なくない。競争・対立・分断構造を越えた、参加、連帯、協働の、NGO/NPOの市民主体による新しい「公共の福祉」に、今後も取り組む所存です。

NPOふくおか常務理事 角正信©sumi3ngo